

令和3年度 第1回学長選考会議議事要録

日 時 令和3年7月6日（火） 15：30～17：30

場 所 事務局1号館2階会議室

出席者 <委員> 石田議長，和泉委員，井戸委員，河村委員，高橋委員，久世委員，
安藤委員，西畑委員，和地委員，中村委員，佐藤委員
<委員以外> 藤野理事・副学長・事務局長，小倉監事，三矢監事

資 料

1. 令和2年度業務執行状況について
- 2-1. 職務に係わる業績調書
- 2-2. 今後の大学運営に対する所信
- 2-3. 再任に向けた決意と所信
- 3-1. 再任審査の今後のプロセスと公表事項について
- 3-2. ホームページへの掲載案

参考資料

1. ヒアリングタイムスケジュール（目安）
2. 国立大学法人東京工業大学に求められる学長像について
3. 国立大学法人東京工業大学学長選考会議規則
4. 国立大学法人東京工業大学学長候補者の選考及び学長解任の申出に関する規則
5. 国立大学法人東京工業大学学長の任期に関する規則
6. 国立大学法人東京工業大学学長選考会議委員名簿

○ 定足数の確認

委員11名，定足数8名に対して出席者11名で成立。

○ 審議事項

1. 学長の業務執行状況の確認について

議長から，「学長候補者の選考及び学長解任の申出に関する規則」第11条の3により，「学長選考会議は，監事と連携しながら学長の業務執行状況について毎年度確認する。」と規定されており，学長選考会議において学長からの説明聴取・質疑応答を行う旨の説明があった。

その後，益学長が入室し，資料1に基づき，令和2年度業務執行状況についての説明があった後，各委員と質疑応答が行われた。

(委員からの主な質問・意見)

- ・田町キャンパス土地活用事業は、長期にわたるプロジェクトでリスク管理が必要であり、事業者との信頼関係の持続に努めてほしい。
- ・田町キャンパスの土地活用事業は、大変すばらしいスタートを切ったが、移転する附属高校の今後の位置付けについての考えを伺いたい。
- ・本館改修については、これまで何度も話し合いをした上で工事を開始したが、今後も研究室の移転が予定されており、関係する学院・系だけの問題ではなく、キャンパス全体で学院・系をどのように配置するのが最も良いのか、大学全体が良い方向へ進むようにリーダーシップを発揮してほしい。
- ・新型コロナウイルス感染症の影響を受け、業務の進捗にかなり影響を受けていると思うが、学長に就任した時に思い描いていたイメージと比べて、具体的にどういふことに影響が生じたのか。
- ・ポスドクで就職するのが難しい方も多いい中、博士後期課程に進む方が少なくなっている。B2D スキームで早い段階で博士後期課程まで進学すると決めた後、他のコースに変わることができるのか、学生へのケアはどう考えているのか。

益学長が退室した後、議長から、小倉監事に業務運営に関して意見を求めた。

小倉監事からは、三島前学長は教育改革・研究改革・ガバナンス改革を進めてきた。益学長はそれを実行すると共に財務基盤の強化を実施してきたといえる。今回のプレゼンテーションで触れられていないが、他にも Taki Plaza の運営では学生が全て主体的に進めていること、オープンファシリティセンターでは TC カレッジを開いたこと、WRHI でのグローバルな活動など、多くのアイデアが含まれていて監事として評価している。平成16年度から法人化され、学長のリーダーシップが強く言われているが、リーダーにとって人の話を聞くことは非常に重要な役割である。益学長は人の話をよく聞き、その上で判断されている旨の発言があった。

以上、益学長に対する説明聴取・質疑応答の結果、益学長がリーダーシップを発揮し、大学運営が順調に進んでいることを確認した。

業務執行状況の確認結果については、議長から、再任審査の結果と併せて、次回の本会議終了後に益学長へ報告する旨の説明があった。

2. 学長の再任審査について

議長から、学長の再任審査に係るヒアリングを実施することについて説明があった後、益学長が入室し、資料2-1から資料2-3に基づき、職務に係わる業績、今後の大学運営に対する所信について説明があった後、各委員と質疑応答が行われた。

(委員からの主な質問・意見)

- ・学長が就任当時に目指されたことを見事に実践している。新しいことも蓄積しておいて、新型コロナウイルス感染症が収束したら一気に実行に移してほしい。
- ・これまで精力的に環境整備、経営改革などに取り組み、着実に成果を積み上げていることについては大変評価している。一方で「世界最高峰の理工系総合大学」というのは具体的なイメージが湧かない。具体的にどのようなものなのか。
- ・博士課程の充足率の低下傾向の原因はいろいろあるが、教員数が減っていることが一つの原因だと思う。これから経営基盤を拡大していくにあたっての教員人事の方策について伺いたい。また、博士課程への進学希望者に対する奨学金の予約採用の制度についても検討してほしい。
- ・増収資源の配分計画について、人への投資以外に具体的な計画はあるのか。
- ・今年を150周年に向けた飛躍元年とか、100年後に向けてとか希望の持てる計画だが、今いる教職員、学生に対しても目に見える政策がほしい。
- ・ニューノーマル時代の中で、具体的にどのようにして多様な学生を受け入れる対策を講じるのか。
- ・授業料値上げの増収分は、教育環境などで学生に還元されていると理解してよろしいか。

(学長からの回答)

- ・レピュテーションが向上することが第一歩である。また、「世界最高峰の理工系総合大学とは？」についての執行部の考えを示すだけではなく、本学の構成員一人一人が議論を深め、目指していくことを続けていかなければならない。
- ・人への投資について、単に人数を増やすのか、トップレベルの人にインセンティブを与えて採用するのか、博士課程学生への支援等も含め、議論をしようとしている。今は財源を持って議論できる段階になったと理解いただきたい。
- ・人への投資以外に、国から来る予算では足りないので定常的な施設整備費に投入する必要がある。さらに大学債発行による先行投資の検討を含めて、キャンパスを思い切ってリノベーションしていくことも計画していきたい。
- ・地方からの入学者を増やすためには今も大隅良典記念奨学金もあるが、地方出身の学生限定の奨学金の強化を検討したい。女子学生については、いろんなことをやってきており、単純にやっている限り急に増える要素がないので、入試方法等についても真剣に議論していきたい。
- ・授業料の増収分は、常日頃の教育環境の整備に投入している。

益学長が退室した後、学長の再任審査について種々意見交換が行われ、審議の結果、再任の審査については、より慎重に進める必要があることから、次回の本会議で審議することを了承した。

(委員からの主な質問・意見)

- ・学長には経営のことばかりではなく、夢のある話を学生並びに教職員にして欲しいという意見もある。また、「世界最高峰の理工系総合大学」が何を指すのか全学に考え方を伝えることが望ましい。
- ・国立大学は、私立大学に比べて財政基盤に対する危機感がかけ離れている。前執行部の時は財政基盤のことで苦勞され、他の国立大学や私立大学が厳しい財政状況にある中、本学では時間を教育研究に注げるようになった。国からの支援も減っていく中で、学長はスローダウンされることなく、財政基盤の強化を推進してほしい。
- ・人の話を聞く学長だという印象を持っている。リーダーとしてかなり抜本的にやろうとされており、今後も期待したい。

また、議長から、次回の本会議においては再任の可否について投票を実施予定だが、開票作業の立会人として藤野理事・副学長・事務局長を指名したい旨の提案があり、審議の結果、これを了承した。

3. ホームページへの掲載案について

藤野理事・副学長・事務局長から、資料3-1及び資料3-2に基づき、再任審査のプロセスと公表事項について説明があり、本会議が終了した後、資料2-1から資料2-3の学長の再任審査に係る資料を本学ホームページ上に掲載することについて説明があり、審議の結果、これを了承した。

○ その他

1. 次回開催について

議長から、次回の本会議は、令和3年7月20日（火）15：00から、事務局1号館2階会議室及びビデオ会議システムにより開催する旨、案内があった。

以 上